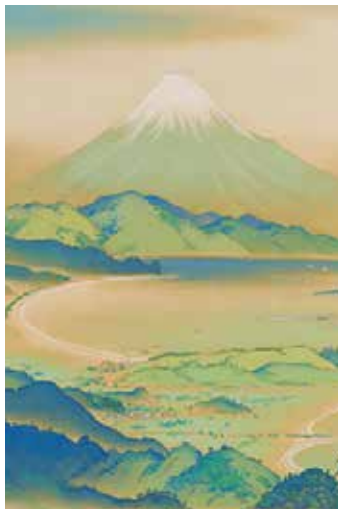


皇居三の丸尚蔵館展

皇室の名宝

 静岡ゆかりの品々とともに

Treasure of the Imperial Household and Shizuoka: Selection from The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan



松岡映丘《富嶽茶園》(部分) 昭和3年(1928)
皇居三の丸尚蔵館収蔵

佐野美術館は、2025 年 9 月 27 日[土] から 11 月 3 日[月・祝] まで、静岡県において、皇室ゆかりの美術工芸品をまとめて公開する初めての展覧会「皇居三の丸尚蔵館展 皇室の名宝―静岡ゆかりの品々とともに」を開催します。

皇居三の丸尚蔵館は、皇室に伝来した美術工芸品を保存、研究、公開・展示する施設で、現在約 6,200 件を収蔵しています。開館 30 周年を迎えた令和 5 年(2023) 11 月 3 日より新たな施設の一部を開館し、同 8 年に全館開館を予定しており、現在も建設工事が進行中です。

佐野美術館の所在する静岡県は、富士山を仰ぎ駿河湾を望む、風光明媚で温暖な気候から、皇室の方々のご静養の地となりました。沼津には明治 26 年(1893)、大正天皇(当時は皇太子)の御用邸が、のちに昭和天皇(当時は皇太子)の御学問所や居所が造営されました。御殿場には昭和 16 年(1941)、秩父宮雍仁親王のご療養のために御別邸が建てられ、邸内に築かれた窯(三峰窯)にて勢津子妃と陶芸に親しまれました。

本展では、当地ゆかりの作品を中心に 48 件を紹介します。皇居三の丸尚蔵館収蔵の名品を通して、日本の長い歴史が培った伝統美への理解を深め、日本人の繊細な美意識に触れられる内容です。

展覧会について

第 1 章 日本の自然美と吉祥の絵画

皇室に伝わった日本画には、慶事にふさわしい吉祥の意匠や伝統の画題が多く見られ、様々な動植物が四季折々の情景とともに表わされます。明治時代以降、帝室技芸員に任命された竹内栖鳳や横山大観などの日本画家による山水画や吉祥画を展示します。

第 2 章 皇室と静岡ゆかりの品々

三峰窯で造られた茶器をはじめ、沼津御用邸で使われた調度品や、静岡県各地から献上された絵画、工芸品のほか、ボンボニエールなどを展示します。

※三峰窯とは、御殿場御別邸から眺められる富士、箱根、愛鷹の三峰、そして宮号と縁の深い秩父三峯との関わりから御殿場御別邸で療養生活を送られていた秩父宮雍仁親王により名付けられました。

第 3 章 皇室に伝わった刀剣類

刀剣は古来重んじられてきましたが、近代に至り、明治天皇はとりわけ日本刀に高い関心を寄せられました。旧大名等から明治天皇へ献上された名刀を展示します。

また、戦に向かう武士の姿も見ることのできる岩佐又兵衛《小栗判官絵巻》巻 15 上を、修復後初公開します。

開催概要

展覧会名：皇居三の丸尚蔵館展 皇室の名宝―静岡ゆかりの品々とともに

会期・時間・休館日：2025 年 9 月 27 日[土]-11 月 3 日[月・祝] 10:00-17:00 (入館の受付は 16:30 まで) 木曜日

会場：佐野美術館 (〒411-0838 静岡県三島市中田町 1-43)

入館料：一般・大学生 1,300 円(1,000 円) 小・中・高校生 650 円(500 円)

※() 内は 9 月 26 日までの前売り料金

※土曜日は小中学生無料 ※15 名以上の団体は各 2 割引

主催：佐野美術館、皇居三の丸尚蔵館、三島市、三島市教育委員会

特別協力：文化庁、紡ぐプロジェクト、読売新聞社

共催：静岡新聞社・静岡放送 後援：静岡県教育委員会

助成：令和 7 年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

協賛：伊豆箱根鉄道株式会社 協力：三島市観光協会

展覧会公式サイト：https://sanobi.or.jp/exhibition/shozokan_2025/

展覧会関連イベント

■記念講演会「皇居三の丸尚蔵館収蔵品にみる皇室と静岡とのゆかり」

10月18日[土] 14:00-15:30 講師：細川晋太郎（皇居三の丸尚蔵館 調査・保存課主任研究員）

■学芸員のギャラリートーク

10月11日[土]、11月1日[土] 14:00-

■英語で三島散策ツアー：皇室の美・和に親しむ English guided walking tour in Mishima

10月4日[土]、10月21日[火] 9:30-16:30 ※全行程英語によるガイドツアー

■国宝《唐獅子図屏風》 高精細複製品の展示

皇居三の丸尚蔵館が収蔵する狩野永徳の代表作、
右隻の高精細複製品を1階ロビーに展示

■日英音声ガイド



【高精細複製品】《唐獅子図屏風》（右隻）製作：キヤノン株式会社（2024）

Canon 文化財活用センター

「高精細複製品を用いた日本の文化財活用のための共同研究プロジェクト」

広報用画像

展覧会紹介のための作品画像のデータ等を、プレス関係の方向けにご用意しています。①～⑦の画像を提供できますので、電話またはメールでご連絡ください。

※本展紹介以外での使用、本展終了後の使用、二次利用はお断りします。画像使用後は、データの破棄をお願いいたします。画像使用の際に、展覧会名、会期、会場、作品クレジット（①は不要）を必ずご記載ください。画像は全図で使用してください。



①



② ※右隻のみの提供も可能です



③



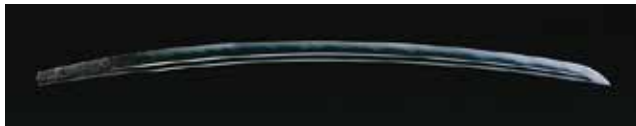
④



⑤



⑥



⑦

作品クレジット

② 横山大観《龍蛟躍四溟》 昭和11年（1936） 皇居三の丸尚蔵館収蔵

③ 岩佐又兵衛《小栗判官絵巻》巻15上（第5段・部分） 江戸時代（17世紀） 皇居三の丸尚蔵館収蔵

※掲載場面は10月15日（水）まで、10月17日（金）から別場面に巻替。

④ 竹内栖鳳《和暖之図》（右隻） 大正13年（1924） 皇居三の丸尚蔵館収蔵

⑤ 前田南斎《桑木地透彫棚》 大正4年（1915） 皇居三の丸尚蔵館収蔵

⑥ 松岡映丘《富嶽茶園》 昭和3年（1928） 皇居三の丸尚蔵館収蔵

⑦ 《刀 無銘 正宗〈名物 若狭正宗〉》 鎌倉時代（14世紀） 皇居三の丸尚蔵館収蔵